

【短報】岩手県におけるチョウカイクロマメゲンゴロウの記録

チョウカイクロマメゲンゴロウ *Platambus ikedai* (Nillson, 1996) は、これまで北海道、本州（山形県、福島県）で記録されている（森・北山, 2002; Okada, 2010; 吉井ほか, 2015）。筆者らは岩手県から本種を採集したので県下初記録として記録する。

1♂, 岩手県宮古市江繋, 2. IX. 2015, 佐野真吾採集・保管（図1）。

本種が採集された場所に近い所では、同属で近種のクロマメゲンゴロウ *Platambus stygius* (Régimbart, 1899) およびホソクロマメゲンゴロウ



図1. チョウカイクロマメゲンゴロウ。

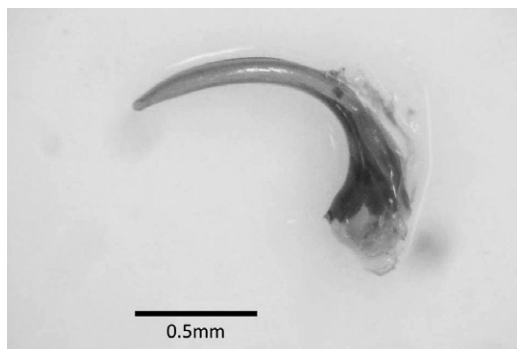


図2. チョウカイクロマメゲンゴロウの雄交尾器中央片。



図3. チョウカイクロマメゲンゴロウが採集された水辺。

Platambus optatus (Sharp, 1884) も採集されており、本種の同定には誤同定がないように雄交尾器中央片の確認を行った。森・北山（2002）によれば、本種の雄交尾器中央片はクロマメゲンゴロウやホソクロマメゲンゴロウに似るが、前記2種に見られる剛毛はほとんど無いことで見分けられるとされる。前述のような特徴は、本種の雄交尾器中央片からも確認された（図2）。

本種が採集されたのは、標高約 500 m 地点を流れる川の支流であった。吉井ほか（2015）が記録した福島県の例では、湿地の中を流れる清流で確認したとされるが、今回筆者らが採集した場所も川の流れが淀みとなり周りには植物が繁茂した湿地状の水辺であった（図3）。当地ではモンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873) とチャイロシマチビゲンゴロウ *Nebrioporus anchoralis* (Sharp, 1884) も得られた。

末筆ながら、本種の同定の確認にご協力いただいた東海大学教養学部人間環境学科の北野忠教授および、山形県と福島県に生息する本種の生息環境について情報を提供して下さったアクアマリンふくしまの平澤桂氏に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ, pp. 121-122. 文一総合出版, 東京.
- Okada, R., 2010. New records of two species of *Platambus optatus* species-group (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, 38(1): 27-28.
- 吉井重幸・平澤 桂・三田村敏正, 2015. 福島県産ゲンゴロウ目録 50 種. *ふくしまの虫*, (33): 20-29.

(佐野真吾・吉崎真司 224-8551 横浜市都筑区
牛久保西 3-3-1 東京都市大学)

【短報】名古屋市民からの同定依頼により持ち込まれたヨコミゾドロムシ長翅型

ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp は、本州、四国、九州の、河川や湧水で出来た池などに生息する稀な種である。従来、別種と考えられていたホソヨコミゾドロムシ *Leptelmis parallela* Nomura は、Hayashi and Yoshitomi (2014) により本種の長翅型であることが判明している。また、本種は環境省（編）（2015）において、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

筆者は、2013年の8月23日に名古屋市緑区在住の80代女性のベッド周りから発生している昆虫の同定を、名古屋市緑保健所からの依頼を受け